

# 介護老人保健施設オアシス21 (リハビリ)

症 例 概 要 利用者氏名：N・E様（女性・80代・要介護度2）

病名：パーキンソン病、高血圧症

経過：平成31年4月上旬 夜中に自宅で転倒し右肩打撲でS病院へ入院。独居のため自宅退院困難となり4月下旬 リハビリ目的でH病院へ転院されました。転倒による右肩部痛は軽快されましたが、右母指に痺れが残存。処方された薬は合わず、痺れが強くなり、パーキンソン病のON-OFF症状による日内変動が大きく、起き上がりや立ち上がりに介助を要する状態。夜間帯に尿意頻回で不眠、倦怠感が強くなり、バルーンカテーテル挿入しオムツでの排泄となっていました。リハビリ以外はベッド上で過ごすことが多く、「このまま寝たきりになって家に帰れなくなるのではないかとご本人・ご家族とも不安に感じ、実際の生活場面に近い環境でのリハビリを希望され、令和元年7月初旬 当施設へ入所となった利用者さん。

## 内 容

在宅復帰には、昼夜とも排泄動作の自立・自宅内伝い歩きの自立、料理が趣味で、以前のように立位での調理動作獲得可能かが課題でありましたが、入所当初はON-OFF症状の現れ方も一定せず、突然立ち上がり困難となり、ベッドへの臥床にも介助を要する状態。そこで

①医師は抗パーキンソン病薬を調整と痺れに対し追加処方。日内変動はあるものの、日中は概ね体調良く過ごせるようになり、痺れが軽減されました。

②介護職員は療養棟の花札にお誘いし、他者交流の機会を増やし引きこもりがちだった利用者さんの活動性が向上。

③リハビリでは、立位保持の安定性・耐久性向上・歩行能力向上による排泄動作の自立・安全な家事動作能力（調理・洗濯）の獲得を目標に個別訓練。体調に合わせ車椅子と歩行車を使い分けすることで棟内の移動が自立、日中の排泄動作も自力で可能となりました。巧緻性回復のために輪投げも日々の訓練メニューに取り入れ、右手の巧緻性改善に加え、立位バランスも向上し、自室・トイレ間などの短距離の独歩・伝い歩きも安定して可能。移動が自立となったことで活動範囲が広がり、離床して過ごすことが多くなりました。

元々、料理が趣味であり、ご家族やご友人に振舞っていましたが、痺れや不随意運動があるため、包丁の操作に自信を失くしていました。そこで、米とき・食材を洗う・切るなど工程の多い炊き込みご飯作

りに挑戦。立位での包丁操作も可能になり、味付け・調味料の配分もご本人に行って頂きました。

④栄養士の提案でご本人におにぎりを作って頂き、ご本人・利用者さん・リハビリ職員・医師・看護師・介護職員・ケアマネ・栄養士・相談員で試食。利用者さん・職員から「おいしい」との声が聞かれ、ご本人も自信を取り戻した様子でした。また、洗濯の一連動作～洗濯ものを洗濯機・乾燥機への出し入れ・洗濯かごを運ぶ・干す～も安全に行うことが出来るようになり、

⑤退所日が決まってからはケアマネが夜間のポータブルトイレでの排泄動作訓練を行うよう指導。ベッドからの起き上がり・臥床、立ち上がり・移乗、下衣操作をご自分で安全に行えることを確認できました。

令和元年10月中旬、自宅退所。その後、10月下旬にリハビリ職員が退所後訪問を実施。

各種サービスを利用し、転倒なく過ごされていて、得意料理である漬物や煮しめを作ることに挑戦し、ご自宅での生活を楽しまれています。